

小山市事務事業評価シート

令和元年度版

No. 44

1. 基本情報			
<1> 事業・業務名	公園施設バリアフリー化整備事業		<2> 事業・業務の別
<3> 選定基準	④ その他		事業
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	8 水と緑に親しむ 自然とふれあうまちづくり	<6> 担当部(局)
	中項目	8-2 やすらぎと潤いのあるまち	都市整備部
	小項目	8-2-1 公園・緑地	<7> 担当所属
	施策	公園施設のバリアフリー化整備	水と緑の推進課
<9> 根拠法令・計画等	都市公園法、高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律	<10> 関連・類似事業	<8> 担当係等
<11> 会計	一般	会計	公園整備係
<12> 予算科目	8 款 4 項 6 目		
<13> 実施期間	H23 年度 ~ R5 年度	<14> 全体事業費	155,000 千円
<15> 実施手法	補助金・負担金・貸付金等 「その他」の場合 ()		

3. Check - 評価 -			
実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か?	1.妥当である
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か?	1.妥当である
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか?	2.変わらずにある
	有効性	<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か?	1.妥当である
		<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか?	1.向上の余地はある
	効率性	<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいか?	1.大きい
<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか?		1.向上の余地はある	
公平性	<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か?	2.検討は困難である	
	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか?	4.該当しない	
<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)	2.改善の余地はある	理由	これまで、公園施設バリアフリー化にあたっては、トイレとそれ以外の公園施設について、各々で設計及び施工を行っていたが、一体的に設計・施工を行うことで、事業の効率化が図れるため。

2. Do - 実施 -

<16> 事業・業務の概要	本事業は、関係法令に基づき、車いす使用者が円滑にトイレ内に移動できるよう、出入口の幅や転回に必要な広さを確保するため、トイレの改修を行うなど、高齢者や障害者等が移動上又は公園施設の利用上の利便性及び安全性の向上ため、バリアフリー化を行うものである。								
目的	<17> 事業・業務の目的	子どもや高齢者をはじめ、誰もが安全に安心して公園を利用できるようにすることを目的とする。							
	<18> 事業・業務の対象	都市公園内にある、トイレ・水飲み場・園路・出入口等の公園施設							
手段	<19> 平成30年度の活動内容	公園愛護里親会及び自治会長と打合せを行い、バリアフリー化工事についての内容を説明。また、公園利用者に対しては、工事のお知らせを配布し、周知を図った。							
	<20> 活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	平成29年度		平成30年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
		打合せ	回	14	4	22	8	36.4%	
成果	<21> 事業・業務の成果	公園施設(出入口、園路、水飲み場、トイレ)のバリアフリー化工事を行う。							
	<22> 成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	平成29年度		平成30年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
	整備公園数	箇所	7	2	11	4	36.4%		
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	平成29年度		平成30年度		投入率(%)	
			千円	107,159	22,159	112,144	42,144		37.6%
		事業費等	千円	105,000	20,000	110,000	40,000	36.4%	
			財源内訳	千円					
			国・県補助金	千円	52,500	10,000	55,000	20,000	36.4%
			地方債	千円	47,200	9,000	49,500	18,000	36.4%
		その他	千円	0	0	0	0		
		一般財源	千円	5,300	1,000	5,500	2,000	36.4%	
		人件費	千円	2,159	2,159	2,144	2,144	100.0%	
		正職員	千円 × 人役	7,195 × 0.3	7,195 × 0.3	7,146 × 0.3	7,146 × 0.3		
他の職員	千円 × 人役	×	×	×	×				

4. Action - 改善 -			
事業の改善	<34> 事業の課題 事業の改善点 今後の方針	平成27年度から防災安全交付金を活用し、公園施設のバリアフリー化を行ってきたが、要望額に対して、国の交付金の配分が少ないため、計画通り公園の改修を実施できない状況で、平成30年度で計画の完了を迎えた。 今後、残された事業について、別の交付金を活用し、公園施設のバリアフリー化を図って行く。	
	<35> 1次評価	所属長	3.現状維持 理由 誰もが利用できるよう、主要な施設のバリアフリーを進めることは必要なことであり、今後は大規模な公園のバリアフリーの考え方を整理していく必要がある。
事業の方向性	<36> 2次評価	所管部長	3.現状維持 理由 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律に基づき、公園施設のバリアフリーを進めることは、公園管理者である地方公共団体の責務である。

5 Plan - 計画 -

<37> 実施計画	防災安全交付金で公園施設のバリアフリー化が実施できなかった公園について、都市再生整備計画事業により、公園施設のバリアフリー化工事を行っていく。				
<38> 活動・成果目標	公園愛護里親会及び自治会との調整を図り、また、公園利用者には、工事のお知らせにより周知を図り、一体的なバリアフリー化工事を実施し、事業の効率化を図る。	<39> コスト計画	単位	令和元年度	令和2年度
			千円	24,144	6,644
		事業費等	千円	22,000	4,500
		人件費	千円	2,144	2,144